



THE BEYOND AND PRODUCTS™

2024年3月25日(月)  
株式会社ジコン

# ファッションブランド初となる『北の国から』オフィシャルコラボレーション THE BEYOND AND PRODUCTS『北の国から'23冬』POP UP STORE 札幌PARCOにて開催決定！

北の国から  
'23冬

THE BEYOND AND PRODUCTS™

『北海道 / 札幌 PARCO POP UP STORE』

会場：  
札幌 PARCO 本館 B2F日程：  
3月30日(土) - 4月7日(日) [ 10:00 - 20:00 ]

## 2024年3月30日(土)～4月7日(日)@札幌PARCO本館地下2階

株式会社ジコン(本社：東京都目黒区祐天寺 代表取締役：清水護)が、展開するレーベル“THE BEYOND AND PRODUCTS”では、『北の国から2023'冬』と銘打ち、ファッションブランドとして初となる『北の国から』とのアパレルコラボレーションアイテムを2023年春に発表、販売をしております。

本コレクションは、『北の国から』シリーズで登場する名場面や文言を“THE BEYOND AND PRODUCTS”の解釈でデザイン表現し、その全てにおいて、原作・脚本をご担当された倉本聰氏をはじめフジテレビ、富良野市などの監修を受け、3年がかりで実現したアイテムとなります。

“次世代に『北の国から』の想いを紡いでいこう！”をテーマに、往年のファンの方々、少しでも観た事がある方、これから初めて出会う方に向け数々の名場面や名言に、どこかしらクスリと笑えるようなユーモアを織り交ぜたデザインをベースに、捨てられるはずだった廃棄物や不用品(布を織った際の繊維くずや、洋服を作る工程で出るハギレ)などをアップサイクルした繊維や、オーガニックコットンなどの天然素材を使い、『北の国から』の世界観をファッションを通じて表現しています。

そしてこの度、2024年3月30日(土)より4月7日(日)までの9日間札幌PARCOにてPOP UP STOREを開催する運びとなりました。

『北の国から』の舞台となっている北海道でのPOP UP STOREの開催、そして多くの北海道民の皆さまにぜひこの機会にお手に取っていただきたくご案内させていただきます。

### ■ 『北の国から2023'冬』札幌PARCO POP UP STORE詳細

期 間：2024年3月30日(土)～4月7日(日)

店 舗：札幌PARCO 本館地下2階

所 在：〒060-8502北海道札幌市中央区南1条西3-3

営業時間：10:00-20:00

# 北の国から '23冬

© FUJI TELEVISION

1981年10月の放送開始以来、  
2021年で40周年を迎えた日本ドラマ不朽の名作『北の国から』

世界の人口増加にともない、2030年には人間が必要とする資源の消費量は、地球2個分に達すると推計され、限りある資源を有効に活用するために、廃棄物の回収・再生利活用だけでなく無駄な資源の使用を減らすことが重要な現代社会において、2015年に国連サミットで採択された「SDGs」

「サステナブル（Sustainable）な社会」とは、「持続可能な社会」を意味します。

それは地球の大切さや有限な資源の有効利用。地球の環境を壊さず、資源も使いすぎず、未来の世代も美しい地球で平和に豊かに、ずっと生活をし続けている社会のことです。

その発想を40年以上も前から北海道・富良野の大自然を舞台に実践し、現代においても色褪せない作品のメッセージ性や主人公“黒板五郎”の生き方、考え方、暮らし方、人と自然の関わり方など、世代を超え後世に残していく為に必要な“人間らしさ”を表現してきたヒューマンドラマ『北の国から』

今回、“THE BEYOND AND PRODUCTS”では『北の国から2023'冬』と銘打ち、“次世代に『北の国から』の想いを紡いでいこう！”をテーマに、往年のファンの方々、少しでも観た事がある方、これから初めて出会う方に向け数々の名場面や名言に、どこかしらクスリと笑えるようなユーモアを織り交ぜたデザインをベースに、捨てられるはずだった廃棄物や不用品（布を織った際の繊維くずや、洋服を作る工程で出るハギレ）などをアップサイクルした繊維や、オーガニックコットンなどの天然素材を使い『北の国から』の世界観をファッションを通じて表現します。

『北の国から'23冬』特設サイト <https://mitsume.tokyo/pages/kitanokunikara>

<お客さまお問い合わせ先>

MitsuME TOKYO tel 03-5768-0744 e-mail [shop@mitsume.tokyo](mailto:shop@mitsume.tokyo)



THE BEYOND AND PRODUCTS™

■ 【THEBEYOND AND THE PRODUCTS™】とは

Remake&Remaind 『物事の価値を検証し来世を設計する』

Remake = 現時点で存在している物事を一新する

Remind = 現時点で存在している物事を再検証する

をコンセプトにプロジェクトを通し、“一つの新しい様式を作る”の実践を行う事が衣料品の新しい付加価値となることを目的とし、ライフスタイルの提案や土着・文化の理解と進展を目的に、物事や空間の提供を行う。

Official site : <https://mitsume.tokyo/pages/the-beyond-and-products>

Official Instagram : [https://www.instagram.com/tbap\\_official/](https://www.instagram.com/tbap_official/)

Official X : [https://twitter.com/tbap\\_kitanokuni](https://twitter.com/tbap_kitanokuni)

<本件に関するメディアお問い合わせ先>

株式会社凜 先浜 万里子

東京都渋谷区神宮前5-20-10

TEL : 03-3407-3488 FAX : 03-3407-3489 E-mail : [press@lihn.net](mailto:press@lihn.net)



[[『北の国から’23冬』イメージビジュアル撮影にあたり]

アイテムの発表を前に、『北の国から』の撮影で一躍全国的に有名になった土地、北海道の「富良野市」にて、俳優として活躍する渋川清彦氏、駿河太郎氏をモデルとして登場していただき、本コレクションのイメージビジュアルの撮影を行いました。

撮影では、一般財団法人 倉本財団、行政、所有者の方々のサポートのもと、行われました。

ドラマシリーズ第一話で東京が嫌になった五郎が、幼い純と螢を連れ、故郷の北海道で暮らし始める、始まりの駅。“「ぬのべ」駅”や、五郎の友達である中ちゃんが営む“中畑木材工業”をはじめ、五郎とシュウと一緒に温泉につかるという衝撃のシーンの舞台である“吹上温泉”など、『北の国から』ならではのロケ地で撮影を行いました。

’92築立ち編から制作していた石の家。大事な場面で登場するその石の家は、本コレクションを象徴するビジュアルとして起用しました。

厳しくも美しい富良野の自然と共に、本コレクションの『北の国から』へのオマージュを存分にお楽しみいただける仕上がりとなっております。

■ビジュアル公開ページ：[https://mitsume.tokyo/pages/kitanokunikara\\_gallery](https://mitsume.tokyo/pages/kitanokunikara_gallery)



『参考資料』 “北の国から’23冬”アイテム 一部抜粋

アイテム一覧 <https://mitsume.tokyo/collections/the-beyond-and-products>

FRONT

BACK



PRICE ¥7,150 (税込)  
SIZE S/M/L/XL/XXL  
COLOR BLACK/WHITE



「子供がまだ喰ってる途中でしょか!!」  
の文字は倉本先生の直筆です。

[デザイン説明]

‘84 夏より。

純の親友の正吉が富良野を旅立つのを見送った帰りのラーメン屋。

丸太小屋の火事や、都会からやってきた少年・努のパソコンの本を誰が盗んだかで、大きな問題に発展してしまった全ての責任を

正吉のせいにしてしまった事をひどく後悔していた純は、正吉に対する後ろめたさや謝りたい気持ちでいっぱいになり、

卑怯で弱虫だった自分を五郎に泣きながら告白する。五郎も風力発電を諦めた事を指摘された事に対してドキッとした事を告白する。

会計後、早くお店を閉めたくてイライラしている店員が、親子の会話を遮るように純のラーメンのどんぶりを下げそうになった時。。

「子供がまだ喰ってる途中でしょか!!」と五郎が怒り、とっさにどんぶりが落ちて割れてしまう。それを拾い集めた蛍の気持ちをデザインに。

FRONT

BACK



PRICE ¥8,800 (税込)  
SIZE S/M/L/XL/XXL  
COLOR BLACK/WHITE

[デザイン説明]

‘95 秘密より。

東京から富良野に帰り、市役所の臨時職員として環境管理課（ゴミ処理）で働いている純。そこに間違っ出された柱時計をきっかけに

シュウと出会う。中学生時代ペンチというあだ名で呼ばれていた程手先が器用な事もあり、山部の粗大ゴミ捨て場を「山部山麓デパート」

と名付け、そこに捨てられた物を自分で修理しリサイクルして使っていた純は、引っ越ししたてでお金がないシュウの部屋の家具や

家電や自転車をプレゼントする約束をし、次第にシュウの事を好きになっていく。純とシュウの出会いのキッカケをデザインに。

FRONT

BACK



PRICE ¥11,000 (税込)  
SIZE S/M/L/XL/XXL  
COLOR BLACK/WHITE

[デザイン説明]

ドラマシリーズ第8 話より。

1980 年大晦日の出来事。電気もテレビもない黑板家。年末ぐらいはテレビをと五郎の計らいで、純と蛍は正吉の家に紅白を観に。

五郎は中畑さん家へ出掛けるが、他人の家の年越しの家族団らの空気に気を使い、それぞれの思いを胸に結局家に帰ってきた3人。

母を思い出し落ち込んでいた純と蛍を五郎が元気付け、紅白歌合戦を観なくたって年は越せるのだと、黑板家らしい年越しをしようと

富良野の街の灯に向かって「さよーならー! 1980 ねーん!」と親子3人で怒鳴るシーンをデザインに。